

新
し
い



官民連携推進協議会

連携支援制度 をご存知ですか？

交流会で出会ったあの人と一緒に
ワークショップ をやりたい！

協議会ポータルサイトに載っていた
あの人を招いて 勉強会 をやろう！

そんな時は・・・

連 携 支 援 制 度

◆制度の目的

本制度は、「新しい東北」官民連携推進協議会の会員が、他団体と連携して実施する「新しい東北」の創造に向けた取組の促進を目的としています。

◆申請できる団体

「新しい東北」官民連携推進協議会の会員

※「新しい東北」官民連携推進協議会の会員が参加する取組を支援します。

他の団体が主催する取組に申請者が参加する場合であっても、申請可能です。

◆対象となる取組（次の要件を全て満たすもの）

1. 「新しい東北」の創造に向けたワークショップ、勉強会等の取組であること
2. 「新しい東北」官民連携推進協議会の会員が参加する取組であること
3. 他の団体と連携して実施する取組であること
4. 継続的な活動を目指したものであること
5. 取組の内容について、開催後、「新しい東北」官民連携推進協議会ポータルサイト上で公表可能であること

◆支援対象経費

1. 会場費 開催会場の使用料金（機器や物品の借上費を含む。）
2. 旅費・謝金 招へいする講師等の旅費・謝金
3. 交通費 以下に掲げる取組に要する申請者の交通費
 - ①被災地に所在する会員が、先進的な取組を被災地に導入する取組
 - ②地域課題解決のモデルとなる被災地の取組を地域内外へ展開する取組

詳細は協議会ポータルサイトへ
https://www.newtohoku.org/works_renkei.html

「新しい東北」

検索



復興庁

Reconstruction Agency

新たなステージ 復興・創生へ

「新しい東北」連携支援制度 活用例

【活用例①】

先進地の取組を地域づくりに活かす

他地域・他団体との交流

「住民主体の地域づくり」の実例を学ぶ

- 特色を活かした地域づくりへの気づきを得る
- 地域の課題を解決/地域の魅力をブラッシュアップする

<実施テーマの例>

- ・他地域で活動する団体と復興事業の進展を取り込んだ地域の振興方法を検討
- ・小規模経営や山間僻地の生産者が多い東北での酪農業のあり方に関して意見交換



【活用例②】

地域を支えるネットワークをつくる

研修会・ワークショップ

特定のテーマについて関係する民間団体で研修会を開催する

- 目標や課題を共有し、地域のために活動する団体の輪を広げる
- 新しいビジネスの創出や地域コミュニティの活性化につながる

<実施テーマの例>

- ・地域の女性農業者のネットワークづくり
- ・水産物の高付加価値化
- ・震災の教訓を防災に活かすノウハウの共有
- ・縫製体験を通じた地域の交流創出



【活用例③】

被災地での学びを復興支援につなげる

スタディツアー

被災地を訪れ、専門家や現地で活躍する団体の話を聞く

- 震災当時の体験や現在の取組について学ぶ
- それぞれにできる支援や協力のあり方を考える

【活用例④】

取組の発信から応援の輪を広げる

活動発表、体験イベント

被災地内外での取組を発信する

- 活動について発信し、支援の輪を広げる
- 事業や取組の範囲を拡大し被災地のモデルを普及・展開する



制度ポイント

<要件を改定しました>

- ・被災地における先導的な取組を地域内外へ展開するための交通費を対象経費に追加
- 被災地での取組を全国のモデルとすることを目的に、被災地外に出向いて取組を発信するためのツールとしても活用可能になりました

<対象となる取組のポイント>

- ・「新しい東北」の創造に向けた取組・・・
「民」のノウハウ・発想を活かして、地域の課題を解決する取組
- ・継続的な活動を目指した取組・・・
団体の中長期的な活動方針の中での位置づけが明確な取組

<対象となる経費（20万円を上限）>

- ・専門家を招へいする際の旅費・謝金
- ・会場となる会議室の使用料金
- ・他地域の取組を被災地で導入するための視察にかかる交通費等

※注意 <対象とならない経費>

- ・被災地訪問のための交通費
- ・広報資料の制作費等